

事例 1

78歳 女性 新規申請

■傷病等
アルツハイマー型認知症

■概況
戸建て。2階に娘夫婦が同居し、1階で本人が生活。
数年前に火の消し忘れで鍋を焦がすことが数回あった。認知症と診断されている。
日常生活は、見守りし声かけがあれば概ね自立しているが、失禁があるためリハビリパンツ着用。自分では交換や後始末はできないため娘が介助している。認知症で直前のことを覚えておらず、同じ話や行動を繰り返すため家族の介護負担となっている。

前回 要介護度	—
---------	---

今回一次判定結果	要介護1 (47.6分)
----------	-------------------------

これらの各ケースに記載されている特記事項及び主治医意見書の内容は、介護認定審査会での状況を出来る限り忠実に表現するために、典型的にみられる特記事項等の記載をもとに作成したものであり、特記事項等の記入の模範例や基本調査項目の選択基準を提示するものではありません。

取扱注意

介護認定審査会資料

令和 5年 2月 7日 作成
 令和 4年 4月 2日 申請
 令和 4年 4月10日 調査
 令和 4年 4月22日 審査

合議体番号 : 000001 No. 1

家族状況 :

被保険者区分 : 第 1 号被保険者 年齢 : 78 歳 性別 : 女
 申請区分 : 新規申請 前回要介護度 : なし

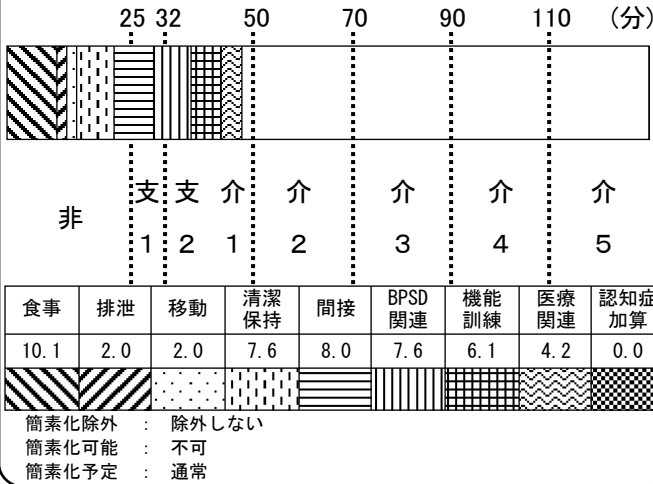
現在の状況 : 居宅 (施設利用なし)
 前回認定有効期間 : 月間

1 一次判定等

(この分数は、実際のケア時間を示すものではない)

一次判定結果 : 要介護 1

要介護認定等基準時間 : 47.6 分



警告コード :

3 中間評価項目得点

第 1 群	第 2 群	第 3 群	第 4 群	第 5 群
82.9	89.2	71.1	91.1	21.5

4 日常生活自立度

障害高齢者自立度 : A 1
 認知症高齢者自立度 : II b

5 認知機能・状態の安定性の評価結果

認知症高齢者の日常生活自立度
 認定調査結果 : II b
 主治医意見書 : III a
 認知症自立度 II 以上の蓋然性 :
 状態の安定性 : 不安定
 給付区分 : 介護給付

6 現在のサービス利用状況 (なし)

2 認定調査項目

	調査結果	前回結果
第 1 群 身体機能・起居動作		
1. 麻痺 (左一上肢) (右一上肢) (左一下肢) (右一下肢) (その他)	-	-
2. 拘縮 (肩関節) (股関節) (膝関節) (その他)	-	-
3. 寝返り	-	-
4. 起き上がり	つかまれば可	-
5. 座位保持	支えが必要	-
6. 両足での立位	-	-
7. 歩行	つかまれば可	-
8. 立ち上がり	つかまれば可	-
9. 片足での立位	支えが必要	-
10. 洗身	一部介助	-
11. つめ切り	一部介助	-
12. 視力	-	-
13. 聴力	-	-
第 2 群 生活機能		
1. 移乗	-	-
2. 移動	-	-
3. えん下	-	-
4. 食事摂取	-	-
5. 排尿	見守り等	-
6. 排便	見守り等	-
7. 口腔清潔	一部介助	-
8. 洗顔	一部介助	-
9. 整髪	-	-
10. 上衣の着脱	-	-
11. スポン等の着脱	-	-
12. 外出頻度	-	-
第 3 群 認知機能		
1. 意思の伝達	ときどきできる	-
2. 毎日の日課を理解	できない	-
3. 生年月日をいう	-	-
4. 短期記憶	できない	-
5. 自分の名前をいう	-	-
6. 今の季節を理解	できない	-
7. 場所の理解	-	-
8. 徘徊	-	-
9. 外出して戻れない	-	-
第 4 群 精神・行動障害		
1. 被害的	-	-
2. 作話	-	-
3. 感情が不安定	-	-
4. 昼夜逆転	-	-
5. 同じ話をする	ある	-
6. 大声を出す	-	-
7. 介護に抵抗	-	-
8. 落ち着きなし	-	-
9. 一人で出たがる	-	-
10. 収集癖	-	-
11. 物や衣類を壊す	-	-
12. ひどい物忘れ	ある	-
13. 独り言・独り笑い	-	-
14. 自分勝手に行動する	-	-
15. 話がまとまらない	-	-
第 5 群 社会生活への適応		
1. 薬の内服	一部介助	-
2. 金銭の管理	全介助	-
3. 日常の意思決定	日常的に困難	-
4. 集団への不適応	-	-
5. 買い物	全介助	-
6. 簡単な調理	全介助	-

<特別な医療>

点滴の管理 : 気管切開の処置
 中心静脈栄養 : 疼痛の看護
 透析 : 経管栄養
 ストーマの処置 : モニター測定
 酸素療法 : じょくそうの処置
 レスピレーター : カテーテル

事例 1

調査日令和4年4月10日

認定調査票（特記事項）

概況

戸建て。2階に娘夫婦が同居し、1階で本人が生活。
数年前に火の消し忘れて鍋を焦がすことが数回あった。認知症と診断されている。
日常生活は、見守りし声かけがあれば概ね自立しているが、失禁があるためリハビリパンツ着用。自分では交換や後始末はできないため娘が介助している。認知症で直前のことを覚えておらず、同じ話や行動を繰り返すため家族の介護負担となっている。

立会い:娘

1 身体機能・起居動作に関連する項目についての特記事項

- 1-1麻痺等の有無 ベッドに端座位で実施。両上下肢とも自力で挙上し、規定の確認動作を行なえた。
(評価軸：有無) (1-1)～(1-9)調査時に確認動作実施。日頃も同様であると娘より聴取。
その他日頃の状況は娘に聴取。
- 1-2拘縮の有無 他動的に確認動作を行うも各関節の動く範囲に制限は見られない。
(評価軸：有無)
- 1-3寝返り ベッド上で実施。つかまらなくても自力で寝返りできる。
(評価軸：能力)
- 1-4起き上がり ベッド上で実施。柵につかまって自力で起き上がりができる。
(評価軸：能力)
- 1-5座位保持 大腿部においた手で体を支え、しっかりと加重して座位保持する。
(評価軸：能力)
- 1-6両足での立位 何もつかまらないうで 10 秒程度は自力で立っていられる。
(評価軸：能力)
- 1-7歩行 つかまれば5m程度の歩行は自力でできる。
(評価軸：能力)
- 1-8立ち上がり 端座位の状態から、何かにつかまれば自力で立ち上れる。
(評価軸：能力)
- 1-9片足での立位 何かにつかまれば1秒程度の片足立位はできる。階段の上り下りも手すりにつかまり自力でできる。
(評価軸：能力)
- 1-10洗身 週2回入浴。娘がタオルを渡し促すと、本人は手の届く所を洗う。背中・足先等うまうま洗えないため娘が洗う。
(評価軸：介助の方法)
- 1-11つめ切り 月1～2回。娘がつめ切りを渡すと手の爪は自分で切る。足の爪は厚く硬いため娘が介助。
(評価軸：介助の方法)
- 1-12視力 調査時、老眼鏡使用し、新聞の字や視力確認表も見える。日頃も老眼鏡を使用、日常生活に支障ない。
(評価軸：能力)
- 1-13聴力 調査時の会話では普通に聞き取れた。日頃も同様で、日常生活の会話でも支障はない。
(評価軸：能力)

2 生活機能に関連する項目についての特記事項

- 2-1移乗 (2-1)～(2-12)は娘より聴取。
(評価軸：介助の方法) 定義に該当する移乗の行為は発生しない。いす等の立ち座りでもふらつくことはない。
- 2-2移動 居室隣のトイレ(5～6回/日)、食堂(3回/日)へ自力で歩いて移動する。なお、外出時は娘が付き添う。
(評価軸：介助の方法)
- 2-3えん下 週1回程度は食事中にムセることあるが、日頃は問題なく飲み込める。
(評価軸：能力)
- 2-4食事摂取 目の前の物のみ食べたり、大きいまま口に入れるので、娘がおかずを1口大に切りご飯の上のせて配膳する。食事中の介助はないが食べこぼしの掃除は娘がしている。
(評価軸：介助の方法)

2-5 排尿 (評価軸：介助の方法)	トイレにて排尿(4~5回/日)だが、認知症のため毎回娘がトイレ誘導し、排尿後トイレ内を確認する。トイレ内は介助されていない。週2~3回流し忘れ、トイレ内の汚れ、夜間の尿失禁がある。娘が服やシーツの交換、後始末、掃除を行う。より頻回で選択。
2-6 排便 (評価軸：介助の方法)	トイレにて排便(1回/日)、(2-5)と同様で毎回トイレ誘導する。週1~2回便座に便付着や流し忘れ、月1~2回便失禁があり、娘が服等の交換、後始末、掃除を行う。より頻回で選択。
2-7 口腔清潔 (評価軸：介助の方法)	自分からはしない。娘が歯ブラシに歯磨き粉を付け準備し促すと、自分で磨くが上手にできない。娘が磨き残しの介助を行う。
2-8 洗顔 (評価軸：介助の方法)	洗面台や服を濡らして上手に洗顔できない。毎回娘が蒸しタオルを渡し、本人が顔を拭く。
2-9 整髪 (評価軸：介助の方法)	ブラシが近くにあり、娘が促すと、本人は髪をとかすことはできる。
2-10 上衣の着脱 (評価軸：介助の方法)	自分からは着替えない。娘が毎回準備し手渡すと着脱は自分で行う。週2~3回は服の前後が逆や、尿失禁で汚れているが、そのままでは対応できない。その都度、娘がやり直しや着替えの介助をする。より頻回で選択。
2-11ズボン等の着脱 (評価軸：介助の方法)	(2-10)と同様で娘が毎回ズボンを手渡す。週2~3回は娘がやり直しや着替えの介助をしている。より頻回で選択。
2-12 外出頻度 (評価軸：有無)	週1回家族と買物、月1回病院受診で外出している。

3 認知機能に関連する項目についての特記事項

3-1 意思の伝達 (評価軸：能力)	日頃、家族に対しては意思伝達できるが、その内容や状況等によっては伝達できる時と、できない時がある。(3群の日頃の状況は娘に聴取)
3-2 毎日の日課を理解 (評価軸：能力)	起床・就寝・食事等のおおまかな内容を答えられない。日頃、物忘れひどく日課も理解していない。食事など日常生活は娘の指示で行動している。
3-3 生年月日を言う (評価軸：能力)	年齢は5歳若かったが、生年月日は答えられた。日頃も同様。
3-4 短期記憶 (評価軸：能力)	面接調査直前のことを返答できなかった。日頃も、食後に食べたことを忘れてたり(毎日)、買物から帰宅後に何処へ行っていたか覚えておらず(毎回)、何をしていたかを思い出せない。
3-5 自分の名前を言う (評価軸：能力)	自分の名前は答えられた。日頃、病院等でも名前は言える。
3-6 今の季節を理解 (評価軸：能力)	季節は「冬」と返答。日常的にいつも冬とっており季節は理解していない。
3-7 場所の理解 (評価軸：能力)	「ここはどこですか」の質問に「家」と返答。日頃も、自分が家に居ることは理解している。
3-8 徘徊 (評価軸：能力)	定義に該当する行動はない
3-9 外出して戻れない (評価軸：能力)	定義に該当する行動はない

4 精神・行動障害に関連する項目についての特記事項 (評価軸：有無)

4-1 被害的 (4-1)~(4-4)は、定義に該当する行動はない(4群は娘より聴取)	
4-2 作話	
4-3 感情が不安定	
4-4 昼夜逆転	
4-5 同じ話をする	聞いた話を覚えておらず、通院や買物時に「今日は何でここに来たのか」と何度も聞いたり、毎日3~4回「今日は何日か」としつつ同じ話をする。その都度、家族が説明し対応する。
4-6 大声を出す (4-6)~(4-11)は、定義に該当する行動はない	
4-7 介護に抵抗	
4-8 落ち着きなし	
4-9 一人で出たがる	
4-10 収集癖	
4-11 物や衣類を壊す	

4-12ひどい物忘れ	危ないため2階(娘住居)に来ないように伝えるが、忘れて1日2~3回は2階に上って来る。家族は階段をのぼる物音で毎回駆けつけ、静止する対応を行うため手間となっている。なお、以前ガスの消し忘れで鍋焦がしが数回あり、ガスの元栓を止めて対応している。
4-13独り言・独り笑い	(4-13)~(4-15)は、定義に該当する行動はない。
4-14自分勝手に行動する	
4-15話がまとまらない	



5 社会生活への適応に関連する項目についての特記事項

5-1 薬の内服 (評価軸：介助の方法)	毎回、娘が水を用意し、薬をシートから取出して本人の手にのせて飲むように促しすると、自分で薬を口に入れ内服する。(5群は娘より聴取)
5-2 金銭の管理 (評価軸：介助の方法)	自分の所持金の支出入の把握や管理はできないため、金銭の管理は全て家族が行っている。
5-3 日常の意思決定 (評価軸：能力)	服は汚れていても濡れていてもそのまま、自分で着る服を選ぶこともない。献立を決めることもない。日常生活では娘の指示で行動するが、買物で稀に菓子を選ぶことがある。
5-4 集団への不適応 (評価軸：有無)	現在、家族以外の集団活動に参加する機会はない。
5-5 買い物 (評価軸：介助の方法)	日用品は家族が購入。週1回家族と買物時、本人が稀に菓子を選ぶが、支払いは家族が行う。
5-6 簡単な調理 (評価軸：介助の方法)	3食とも家族が用意。本人はレンジ等の加熱もできず、定義の行為も全て家族が対応。

6 特別な医療についての特記事項

なし

7 日常生活自立度に関連する項目についての特記事項

7-1 障害高齢者の日常生活自立度(寝たきり度)	日中はほとんど離床、屋内での生活は概ね自立している。介助があれば外出もしている。
7-2 認知症高齢者の日常生活自立度	認知症、服薬・金銭管理はできず、着替え・食事・排泄も上手にできないが、日常生活は家族が注意しながら必要な場面で声かけや支援をしている。

8 その他特記事項

事例 1

主治医意見書

記入日 令和 4 年 4 月 16 日

申請者	(ふりがな)	女	〒	—
	明・大・ <u>昭</u> 年 月 日生 (78歳)		連絡先	()

上記の申請者に関する意見は以下の通りです。

主治医として、本意見書が介護サービス計画作成等に利用されることに 同意する。 同意しない。

医師氏名 _____

医療機関名 _____ 電話 () _____

医療機関所在地 _____ FAX () _____

(1) 最終診察日	令和4年3月23日
(2) 意見書作成回数	<input checked="" type="checkbox"/> 初回 <input type="checkbox"/> 2回目以上
(3) 他科受診の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 (有の場合) → <input checked="" type="checkbox"/> 内科 <input type="checkbox"/> 精神科 <input type="checkbox"/> 外科 <input type="checkbox"/> 整形外科 <input type="checkbox"/> 脳神経外科 <input type="checkbox"/> 皮膚科 <input type="checkbox"/> 泌尿器科 <input type="checkbox"/> 婦人科 <input type="checkbox"/> 眼科 <input type="checkbox"/> 耳鼻咽喉科 <input type="checkbox"/> リハビリテーション科 <input type="checkbox"/> 歯科 <input type="checkbox"/> その他 ()

1. 傷病に関する意見

(1) 診断名 (特定疾病または生活機能低下の直接の原因となっている傷病名については 1. に記入) 及び発症年月日

1. 認知症 発症年月日 (令和 2 年 4 月 日頃)

2. _____ 発症年月日 (令和 年 月 日頃)

3. _____ 発症年月日 (令和 年 月 日頃)

(2) 症状としての安定性 安定 不安定 不明

(「不安定」とした場合、具体的な状況を記入)

(3) 生活機能低下の直接の原因となっている傷病または特定疾病の経過及び投薬内容を含む治療内容
〔最近 (概ね 6 ヶ月以内) 介護に影響のあったもの 及び 特定疾病についてはその診断の根拠等について記入〕

鍋を焦がす、水道を止め忘れるなどの症状があり当院受診し、アルツハイマー型認知症と診断。
ドネパジル内服開始。近時記憶障害、尿失禁、服薬管理ができないなどの症状がある。

2. 特別な医療 (過去 1 4 日間以内に受けた医療のすべてにチェック)

処置内容	<input type="checkbox"/> 点滴の管理	<input type="checkbox"/> 中心静脈栄養	<input type="checkbox"/> 透析	<input type="checkbox"/> ストーマの処置	<input type="checkbox"/> 酸素療法
	<input type="checkbox"/> レスピレーター	<input type="checkbox"/> 気管切開の処置	<input type="checkbox"/> 疼痛の看護	<input type="checkbox"/> 経管栄養	
特別な対応	<input type="checkbox"/> モニター測定 (血圧、心拍、酸素飽和度等) <input type="checkbox"/> 褥瘡の処置				
失禁への対応	<input type="checkbox"/> カテーテル (コンドームカテーテル、留置カテーテル 等)				

3. 心身の状態に関する意見

(1) 日常生活の自立度等について

・障害高齢者の日常生活自立度 (寝たきり度) 自立 J1 J2 A1 A2 B1 B2 C1 C2

・認知症高齢者の日常生活自立度 自立 I IIa IIb IIIa IIIb IV M

(2) 認知症の中核症状 (認知症以外の疾患で同様の症状を認める場合を含む)

- ・短期記憶 問題なし 問題あり
- ・日常の意思決定を行うための認知能力 自立 いくらか困難 見守りが必要 判断できない
- ・自分の意思の伝達能力 伝えられる いくらか困難 具体的要求に限られる 伝えられない

(3) 認知症の周辺症状 (該当する項目全てでチェック: 認知症以外の疾患で同様の症状を認める場合を含む)

無 有 { 幻視・幻聴 妄想 昼夜逆転 暴言 暴行 介護への抵抗 徘徊
 火の不始末 不潔行為 異食行動 性的問題行動 その他 ()

(4) その他の精神・神経症状

無 有 [症状名: _____ 専門医受診の有無 有 () 無]

(5) 身体の状態

利き腕 (右 左) 身長 = 145cm 体重 = 45kg (過去 6 ヶ月の体重の変化 増加 維持 減少)
 四肢欠損 (部位 : _____)
 麻痺 右上肢 (程度 : 軽 中 重) 左上肢 (程度 : 軽 中 重)
 右下肢 (程度 : 軽 中 重) 左下肢 (程度 : 軽 中 重)
 その他 (部位 : _____ 程度 : 軽 中 重)
 筋力の低下 (部位 : _____ 程度 : 軽 中 重)
 関節の拘縮 (部位 : _____ 程度 : 軽 中 重)
 関節の痛み (部位 : _____ 程度 : 軽 中 重)
 失調・不随意運動 ・ 上肢 右 左 ・ 下肢 右 左 ・ 体幹 右 左
 褥瘡 (部位 : _____ 程度 : 軽 中 重)
 その他の皮膚疾患 (部位 : _____ 程度 : 軽 中 重)

4. 生活機能とサービスに関する意見

(1) 移動

屋外歩行 自立 介助があればしている していない
 車いすの使用 用いていない 主に自分で操作している 主に他人が操作している
 歩行補助具・装具の使用(複数選択可) 用いていない 屋外で使用 屋内で使用

(2) 栄養・食生活

食事行為 自立ないし何とか自分で食べられる 全面介助
 現在の栄養状態 良好 不良
 → 栄養・食生活上の留意点 (_____)

(3) 現在あるかまたは今後発生の可能性の高い状態とその対処方針

尿失禁 転倒・骨折 移動能力の低下 褥瘡 心肺機能の低下 閉じこもり 意欲低下 徘徊
 低栄養 摂食・嚥下機能低下 脱水 易感染性 がん等による疼痛 その他 (_____)
 → 対処方針 (_____)

(4) サービス利用による生活機能の維持・改善の見通し

期待できる 期待できない 不明

(5) 医学的管理の必要性 (特に必要性の高いものには下線を引いて下さい。予防給付により提供されるサービスを含みます。)

訪問診療 訪問看護 看護職員による訪問・相談 訪問歯科診療
 訪問薬剤管理指導 訪問リハビリテーション 短期入所療養介護 訪問歯科衛生指導
 訪問栄養食事指導 通所リハビリテーション その他の医療系サービス (_____)

(6) サービス提供時における医学的観点からの留意事項

・ 血圧 特になし あり (_____) ・ 移動 特になし あり (_____)
 ・ 摂食 特になし あり (_____) ・ 運動 特になし あり (_____)
 ・ 嚥下 特になし あり (_____) ・ その他 (_____)

(7) 感染症の有無 (有の場合は具体的に記入して下さい)

無 有 (_____) 不明

5. 特記すべき事項

要介護認定及び介護サービス計画作成時に必要な医学的なご意見等を記載して下さい。なお、専門医等に別途意見を求めた場合はその内容、結果も記載して下さい。(情報提供書や身体障害者申請診断書の写し等を添付して頂いても結構です。)

危険認識力の低下あり。近時記憶は著しく低下している。